

1. 推進地域の現状と課題及び調査研究の目的

- ・三重県多気郡明和町にある史跡齋宮跡は、飛鳥時代から南北朝時代まで続いた、古代国家と祭祀の関係を示す貴重な文化財です。また、これまでの発掘調査により、平安時代には宮城県の大賀城や福岡県の太宰府にも匹敵する古代都市であったことが分かってきました。
- ・しかし、地域にとって貴重な文化財も、その大部分は地下に埋没しているため、齋宮が育んできた地域の歴史や文化に、地域の将来を担う子供たちが直接触れて理解することは困難でわかりにくいものとなっています。
- ・子供たちが自分たちの足元にある齋宮跡により直接的に触れ合い、知り、考える機会を創出していくことで、文化財を通じより深く自分たちの地域を理解するきっかけを作ることができ、地域の将来を担う人材の育成にもつながると考えています。
- ・齋宮歴史博物館では、これまでも地域の小学校と協力して子供たちの体験発掘を実施してきましたが、一過性の宝探しのイベントに終わりがちになっていました。本事業では、齋宮を活かした地域の学習にあたり、学校と博物館の連携をはじめ、広く地域の大人の方々や地元大学生の参画を得て、子供たちがより深く地域を学べるようにしたいと考えました。



空から見た史跡齋宮跡



史跡公園「さいくう平安の社」

2. 調査研究の実施内容

(1) 具体的な実施内容 類型【 I 】

- ・史跡齋宮跡での学習を行うにあたり、博物館と実践校により博物館見学、体験発掘、学校内での取組、成果の確認などについて、年間の計画を検討しました。
- ・齋宮歴史博物館と実践校が連携して、小学生の第6学年を対象に史跡齋宮跡での体験発掘や発掘現場見学を実施しました。こうした現地での学習に先立ち、博物館の展示室や、バックヤードの見学、出前授業を通して、齋宮の基本的な学習や、博物館や文化財の役割・価値についての学習を行いました。

- 発掘場所の準備及び体験発掘実施の際には、県内大学の考古学・歴史学や教育学等の専攻生を調査アシスタントとして委嘱し、準備に協力してもらいました。また、一方で地域の文化財を活用する人材である大学生には、体験に基づいたレポートを提出してもらい、経験のある博物館職員らと意見交換を行うことで大学生も学び、体験する機会とすることとしています。
- 野外での体験学習は天候等にも左右されますが、博物館では土器（現代のもの）に墨で文字を書いて、記念に持ち帰る「墨書土器体験」などのサブメニューを用意して、好評をいただきました。
- 本事業のための発掘や見学の実施にあたり、地元齋宮小学校に関わる学校ボランティアや地域のボランティア等の参画も促し、「地域の大人」として子供たちと積極的にコミュニケーションがとれる機会を作るとともに、「地域の大人」の齋宮跡への思いや取組を話してもらい、一過性の体験だけではない経験や学習活動につなげるようにしました。
- 体験発掘や博物館の見学とあわせて、博物館が実施した夏期企画展「齋宮のまわりにも魅力がいっぱい—齋宮で自由研究②—」を活用し、より自主的な地域学習が進められるよう、明和町内の各小学校と連携をとりました。



地域の大人達の協力による発掘準備



地域で活躍する大人達の話聞く



発掘現場見学の様子



齋宮にちなんだ墨書土器体験

- 史跡での体験発掘や発掘現場及び博物館の見学などを通して得られた、子供たちの自主的な学習成果を公開・発表していく機会をつくるため、学習・体験を

まとめる作文指導のほか、実践校の中で、子供たち自らが齋宮跡を紹介する手作りパンフレットやガイドブックを作成してもらいました。これをカラーコピーしたものを、博物館及び、地元明和町の文化施設等に開架して、多くの方の目に触れられるようにしました。地域の人たちや観光客が見るということは、子供たちにとってモチベーションにもつながったと考えています。

- ・子供たちが参加した発掘現場の写真等を使い、齋宮跡と発掘調査を学習するための補助教材としてB5判8頁のパンフレットを齋宮歴史博物館が作成しました。

(2) 成果の検証

- ・実践校のうち、学習の成果として、2校で齋宮を紹介するパンフレットを、1校で齋宮の学習を踏まえた作文集を作成しました。
- ・体験発掘に参加した実践校の子供たちが作成したパンフレットの内容や、掲載された感想から、一過性の体験発掘以上のことを子供たちが学んだことや、楽しく学習できたこと、自分たちが住んでいる地域に様々なストーリーがあることへの驚きが伝わってきます。

(子供たちの感想の例)

- ・この学習を通して竹神社のことをよく知ることができました。竹神社に12人も神様がまつられているなんて知りませんでした。ここに宮殿の一部があったとは信じられません。
- ・このパンフレットづくりで齋宮の歴史や取組について学習できてよかったです。
- ・「菟川」の「祓」は禊をするため、心と体を清める意味があると知って驚きました。昔はきれいで泳げる川だったと勉強しました。この町はすごい。
- ・自分が住んでいる町が日本遺産であることはほこりに思います。
- ・齋宮の花園（地名）が「源氏物語」に出てくると知ってびっくりしました。
- ・齋宮は歴史でできていると言っても可能だと思います。



齋宮学習の成果「手づくりパンフレット」

(教員からの意見・感想)

- ・子供たちがいつも目にしているものに価値があることや、歴史があることを意識することができてよかった。ただ、暑い日だったので、時期をずらすと もっと話も集中して聞けたと思う。
- ・(博物館の)バックヤード見学は、子供たちもとても喜んでいて。これから もぜひ続けていきたい。
- ・知っているようで知らない、地元齋宮のことを詳しく知ることができて、子 供たちが自分たちの住んでいる地域の歴史のすばらしさを改めて知る機会と なった。
- ・子供たちが作ったパンフレットを、地域で公開してもらえて喜んでいる。自 分たちの町を見直すよいきっかけとなった。

3. 実施体制

【主要な参加機関・団体の役割】

- ・ 齋宮歴史博物館：体験発掘の企画・準備
外部アシスタント (大学生)・各団体の調整
教材パンフレットの作成・各学校等ヒアリング
夏期企画展などを通じた地域学習の支援
- ・ 齋宮小学校・明星小学校・上御糸小学校 (実践校)
：参加児童の監督・引率
作文のとりまとめ
齋宮パンフレット作成など、より深い地域学習の導入
- ・ 明和町 　　　　　：齋宮歴史博物館と連携した出前授業の実施
- ・ 大学生アシスタント 　：体験発掘実施の準備・アシスタントとしての協力
- ・ 齋宮跡協議会 　　　　　：体験発掘実施にあたっての準備・当日の協力
- ・ 齋宮ガイドボランティアの会： 　　〃
- ・ 学校ボランティア 　　　　： 　　〃

4. 今後に向けて

- ・ 今回の事業を通して、齋宮跡と周辺の地元小学校と齋宮歴史博物館の連携が強 められ、齋宮地区だけでなく明和町や周辺地域が誇るべき文化遺産としての齋 宮跡を活かした、地域の総合的な学習の幅を広げることができたと思います。
- ・ 史跡齋宮跡を教材とし、博物館や行政・地域住民が支援して集団での学習を行 うことで、子供たちが主体的に学ぶ意欲の向上につながることで、非認知能力 (や りぬく力、自制心、社会性) を伸ばすことにつながればと考えています。
- ・ 史跡齋宮跡や、自分たちのまわりにある文化財を大切に、地域の歴史や伝統 を未来に伝えていくことの重要性に気付く子供たちを増やしていけるよう、今 後も地域ぐるみの取組を継続していきたいと考えています。